
とある最強の魔術能力（マジックスキル）

せつつあん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マジックスキル
とある最強の魔術能力

【Nコード】

N2229T

【作者名】

せつつあん

【あらすじ】

これは、レベル0の作者が贈るストーリー。
とある魔術の禁書目録の二次創作です。
まだまだ読み始めたばかりなので駄文です。
個人的には一方通行が好きです。

第1話 幻想殺しと魔術能力

「——ええい！くそっ！くそっ！あーもうちくしょー不幸すぎますーっ！ー！」

「なんとまあ、随分変態チックな叫び声どすな」

「なぜに京都弁！？」

どうもゝ実はレベル5なのに面倒くさいからレベル4にしている辻^{つじ}陸^{りく}です。

今の状況を説明すると、明日は夏休みだーっ！と浮かれてる上条当麻に

無理矢理ファミレスに

連れてこられ、ゴーヤとエスカルゴの地獄ラザニアなんか頼んでる当麻はさておき

俺はチョコレートパフェを頼んでいたら、
当麻が女の子を助けようとしていて

知らないふりをしようとしていたのだが、これまた無理矢理手を引かれて

不良たちから逃げ回るという完璧なとばっちりを受けている。説明
終了

「うっ、不幸だーっ！」

「てんめっ！どっちが不幸かわかってんのか！！」

「ヒイイ！！」

少年はただ走る走る走る

「く、くそ……やっと撒いたか」

「てめえ、よくも巻き込んでくれたな」ピキッ

「いや、あ、あの」

「問答無用！！」

辻の拳が上条に突き刺さる瞬間

「ったく、何やってんのよアンタら。不良守って善人気取りか、熱血教師ですかあ？」

その瞬間二人の体が凍りついた

（あれは……レディオノイズはいかく量産型能力者計画の……）

「お前はオリジナルか……」

「……アンタ！！」

「おっと、俺はなににも干渉しないから安心しな」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「何の話をしているんだ？」

「なんでもねーよ。つい後ろの連中が追ってこなくなったのは」

「うん。めんどいから私が焼^{ヤッ}いた」

女の周りに火花が散った

「……つか、俺が何したってんだよう」

「……俺は何もしてないぞう」

「私は、自分より強い『人間』が存在するのが許せないの。それだけあれば理由は十分」

「お前だって第3位のくせに」ボソ

「・・・・・・・・・・・・・・・・」キッ！！

（睨まれた）

「あの、それな？お前が32万8571分の1の才能の持ち主なのはよくわかってるけどさ、

長生きしなかったら人を見下すような言い方止めた方がいいぞ、ホント」

「……まったく、強者のセリフよね」

「は？」

「強者、強者、強者。生まれ持った才能だけで力を手に入れ、そこに辿り着くための辛さを

まるで分かってない——マンガの主人公みたいに不敵で残酷な言葉よ」

「おいおいおいおい！年に一度の身体検査見てみるよ？俺の能力はレベル
ゼロで

こいつはレベル4、お前はレベル5だぜ？その辺歩いてるやつに聞いてみるよ、どっちが上なんて

一発で分かんたる！」

「ふーん？」

女はポケットからコインを出しながら言った

「ねえ、超電磁砲^{レベルガン}って知ってる？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2229t/>

とある最強の魔術能力（マジックスキル）

2011年10月8日23時13分発行